

## 8 歌と踊りとギター

### フラメンコのベース／歌と踊りとギター

フラメンコは、様々なかたちで表現されます。50年以上の長い歴史を誇るカンテ・デ・ラス・ミーナス祭、ラ・ウニオンのコンクールにはギター以外の楽器部門があり、ピアノやフルート、エレキベース、マリンバなど、様々な楽器でフラメンコを演奏する人たちが優勝しています。スペイン各地でのフラメンコ公演でも、パーカッションやバイオリン、チェロ、コントラバスなどの楽器はもちろん、オーケストラとの共演、また俳優や他ジャンルのダンサーなどが加わった公演も珍しくありません。ですが、基本となるのは歌と踊りとギター。この三つです。

### 舞踊 世界中で人気

世界中で愛され、楽しまれているフラメンコ。日本で最も多く開催されているのは舞踊公演ではないでしょうか。スペインからやってくるアルティスタたちの公演はもちろん、地元のアルテ

ィスタによる公演も、舞踊公演が圧倒的に多いですね。これは日本だけでなく、スペイン以外の国ならどこでも同じです。言葉の壁を感じることなく、観て目で楽しめるからでしょう。ローマ時代からカデイスの踊り手は有名だったといいます。その血が受け継がれてきたのでしょうか。フラメンコ舞踊は18世紀末からスペイン全土で流行したボレロの影響を受けているといい、確かにフラメンコ黎明期の絵画での踊りの姿はボレロのような形のもので多いですね。サパテアードやピトーなど身体を楽器のように使うのも独特で、歌っていない、ダンサーの名前での録音、DVDではなくCDがあるというのはクラシックバレエなど他のジャンルの舞踊ではあまりありません。

### ギター

スペイン生まれの楽器、ギターがフラメンコになくてはならないものとなったのは19世紀初めのことだと考えられています。1850年頃には今私た

ちが知るギターの形ができ、ラスゲアードやアルサブアといったテクニックが確立されていきました。歌や舞踊の伴奏楽器だったギターがソロ演奏を行うようになったのは20世紀に入ってからですが、アメリカで活躍したサビーカスなどの存在もあって、その魅力は世界中に知られるようになりました。パコ・デルシアのジャズとの共演なども、フラメンコ・ギターの魅力を改めて世界に知らしめました。日本のフラメンコ好きな男性にはギターをきっかけにフラメンコに親しむようになったという人が多いように思います。

### 歌が重要？

でも、フラメンコで一番大切なのはカンテ、歌だ、と聞いたことはありませんか？ 確かに、ラ・ウニオンのコンクールも最初は歌だけで、その後、ギター、舞踊、そして楽器と新しい部門が加わっていきました。スペイン国内でのフラメンコ・コンクールの9割は歌のコンクールで、踊りやギターを対象とするものは数えるほどです。村のフェスティバルでのメインもカンテで踊りは花を添える、という感じで、ギターソロがないことも多いです。スペインのフラメンコの人気の中心はカンテに違いありません。

確かにカンテは大切です。でも、カンテだけが重要、というわけではありません。ギターや踊りもそれぞれ大切です。スペイン以外の外国では、言葉の問題もあってか、舞踊やギターにばかりスポットが当たり、歌が添え物のように思われることもあったので、ことさら、カンテの重要さが言われているということもあるでしょう。ただ、カンテの存在ゆえにフラメンコは民謡から脱し、カンテがフラメンコのすべてのベースになっているというのも間違いありません。ギターは歌の伴奏をすることで発展してきましたし、カンテが入らない踊りというのもファルカやサパテアードなど一部の曲を除き、つい最近まで考えられませんでした。



パコのギターを聴かずしてフラメンコを語るなかれ。世界中を虜にした天才ギタリストも最初は兄ベベの歌伴奏、そしてホセ・グレコ舞踊団などで舞踊伴奏も経験しています。



日本では知られていないが、彼(エンリケ・モレンテ)も天才。古いカンテ、先人のアルテを熟知した上で新しいものを作っていたのもパコと一緒に。スペインではカマロンと並び称される存在。

### 歌が最初？

歴史に名を残す最初のフラメンコのアルティスタは、18世紀末のヘレスの水売り、ティオ・ルイス・デ・ラ・フリアーナで、トナーの歌手だったと言います。無伴奏の歌、トナーは、昔のロマンセの一部分だけ残って歌われているものです。そんなこともあって、フラメンコは歌から始まったと昔から言われてきました。でも全てのフラメンコの曲がトナーから始まったわけではありません。宴から始まったフラメンコ、歌と踊りは同時発生的で、むしろ初期のフラメンコの主役は踊りだったのではないかと考えられます。

### 三位一体

ところで日本ではよく、フラメンコでは三位一体が大切と言われてきました。すなわち、舞踊、歌、ギターが一つになってみせる、という意味で使われています。が、これ、スペインで同じことを聞いたことがありません。あまりに普通のことなので特に言う必要がないのでしょうか。

ちなみに踊りの場合、リーダーシップを取って、構成を歌とギターに伝えるのは踊り手ですが、歌を聞いて歌を踊る必要があります。つまり本番で、長さや数なども含め、考えていたのと違う歌が来ても、それに合わせる技量が必要です。また、ギタリストは、歌い手の歌に合わせてると同時に、踊り手の出す合図にも敏感でなくてはなりません。その上、踊り手や歌い手は数曲しかレパートリーがなくともプロを名乗って舞台に出ることが可能ですが、ギタリストの場合、あらゆる曲種の様々なパターンを熟知していないとプロとはなれません。普段舞台の奥にいて、あまり目立つことがないギターですが、実は影の実力者、なのです。



92年のしかぜ、その2。万博・五輪とスペインイヤーの92年はラファエル・アギラール舞踊団来日公演をコーディネートしました。後年国立パレエでも活躍したプリミティボ・ダーサと。



イスラエル・ガルバンの『黄金時代』はカンテ、ギターと3人だけの舞台。が今に至るまで世界各国で公演を重ねている大ヒット作です。フェルナンド・テレモート、アルフレド・ラゴスと役割を変えてみせるアンコールも印象的です。

志風恭子／1987年よりスペイン在住。セビージャ大学フラメンコ学博士課程前期終了。パセオ通信員、通訳コーディネーターとして活躍。パコ・デ・ルシアをはじめ、多くのフラメンコ公演に携わる。